

7. 自由意見

問39 就職氷河期世代への支援に関して意見・要望があれば教えてください。(自由記述)

【男性】

- コロナ以前は労働力不足が言われており、人材育成等に苦慮している会社も多いと聞きました。現在はコロナ等により雇用を控える様子も見えます。人を必要としている企業と就職活動を行っている人々をマッチングさせる機会を1つでも多く作って頂きたい。また、就職しようとする方々へのスキルアップの機会をよりいっそう作って頂きたいし、様々な施策について周知を徹底し続けて欲しいです。
- 何より大切なことは協調性とコミュニケーション能力だと思いますので、そこを伸ばす支援と幅の広いスキルを取得できるような支援がいいのではないのでしょうか。
- 就職氷河期世代の人は自分も含めてよい就職にも恵まれず、収入も少なく結婚も出来ず、子供もいない人が多いので、仕事、結婚、金銭面での国のサポートをもっとして欲しいと思います。そうでなくては報われない人がたくさんいるので過ぎた事と片付けないでもっと支援して欲しいです。
- 自分の場合は、性格の問題もあると思います。内向的な所が一步ふみだせないです。最近では病気もあるのでおさらです。もちろんなんとかしたい気持ちはあります。
- 就職氷河期世代に特化した取り組み(正規雇用増等)を進めてほしいと思います。*上の世代や下の世代との世代による格差を日頃より感じています。
- もう少し、早い段階で欲しかった。
- 就職氷河期世代で現在無職の方の雇用も重要だと思うが、仕方なく就職した人も多いからその人達対象の求人も出して欲しい。
- いい政策だと思うが卒後20年経過してからの新たな就業は困難を伴うと思います。
- もっと早く支援のスキームを設けてほしかったです。新卒者、若年者が圧倒的に有利なのかもしれませんが、年齢や経歴は関係無く、同一労働同一賃金で等しくチャンスを与えてくれる企業が増えれば、と思います。
- 収入が減少していくので、本業の仕事以外に副業を認めるよう、行政が見本となりはじめてほしい。
- 40までやりたい仕事をやってきたが収入に関してまた勤務時間、勤務日数(月休み5~6日有給が使えないシフト)に関しての不満がつっております。しかし、この歳で次の仕事に移れるのか不安があり支援のことは知っているが利用しづらいです。新しい職種に順応出来るかよりも年下の先輩方との人間関係、付き合いが不安です。ただ、今後の人生を考えてこのコロナ禍にてもっと社会に必要とされる職種に興味があり私自身に社会に役立つ職種を模索しています。来年に向けて新しい環境を見つけて収入、公休ともに少しは安定した職種につけたらと考えてます。
- 引きこもりの方向けの、就労支援の充実ひきこもりの方が仕事ができる機会が増えたら支え手が増えると思う。
- 結婚して子育てしている女性の仕事の幅が広がるといいと思います
- 30代半ばという事で転職にも自信がないのでいかに今の職場で長く働けるか、長く働ける仕組みや講習等が職場や組織が行えれば、転職の必要性もなく安心して60代70代まで働けるのでは?と思います
- 年功序列、長時間労働、サービス残業、パワハラ、全国転勤など個人や家族の犠牲と共に就業してきた世代であり、働き方改革や女性、高齢者(上の世代)、外国人などの就労人口が増加傾向となる中、ますます不利な採用環境が見込まれる。このような環境下において、それぞれのキャリア、特性に応じたより専門的なスキルの向上支援や人材が不足している業種・業界への紹介、マッチング支援の拡充が必要となるものと考えてる。

- 私自身は大卒後すぐに職に就くことができましたが、民間の当時の状況を考えれば、より手篤い施策がとられるべきだったと思います。今、氷河期世代への各種施策が行われていますが、採用された方と雇用側のミスマッチが少なくなるような、有給でのインターンシップ的なものが出来ればよいと思います。自分もそうですが、体力・視力・記憶力がだんだん衰えてきているので、そうした面も考慮されていると、施策を利用して雇用する側、応募する側双方にメリットが大きいと思います。
- 再就職をする為には社会における生活環境・経済環境など現在は、難しい状況だと感じます。この年齢になって再就職するのはかなり難しいと思います。支援政策が今のこの時勢において成果を出すとは思えません。まずは経済状態の改善が見られないと雇用にはつながらない。鹿児島市で働きたいと思えるような職種が増えるなど、選択肢がたくさんないと再就職する気は無くなるのでは。今ある仕事だけを紹介するのではなく、自分がやりたいと思える仕事を応援できる環境を作るべきだと思います。
- 公的機関の積極的な採用拡大をお願いしたい。

【女性】

- 社会に合わなかった、自分が必要とされなかった、やりたいと思っていた事ができなかったなど否定的な気持ちに向き合ってもらえるのか不安をかかえている。長い間責任のある事をしてこなかった、自分より年下の方に教えられる事へのやっつけられるのかという不安に対して1人1人への確実なサポートがなければならぬと思う。「窓口があります」では解決できない心の問題へどのように切り込んで社会へ引っぱり出すのか疑問がある。行政からの積極的な介入に期待している。
- 就職氷河期世代は、もし正規労働者であれば管理職や統括的な役割に就いている年齢である。事業者が氷河期世代の雇用を促進したとしても、これまで十分なキャリア形成ができていない氷河期世代が現場に入ったところで”年齢だけとった新人”としてお荷物扱いされ、苦しい思いをするのではないかと危惧します。単に雇い入れの数を増やすだけではなく持続可能性も考慮し、PCスキルや資格取得など、客観的に認められる個人の能力を就活前に高める支援も必要だと思います。
- 就職氷河期世代は能力が高い人も、正式採用されずつらい思いをしている人が多くいると思います。支援の拡充をしてほしいと思います。
- 就職を受け入れる側の企業がまず安定していないといけなないので雇う側も雇われる側もメリットがある支援が必要だと思う。
- 正直に申しますと、就職氷河期世代の人も、よい年齢の大人です。何としてでも正社員にと思う人は正社員になっているのでは？と思うのです。どんな職種であれ。現時点において氷河期世代だったから非正規だというのであれば今から正社員になる覚悟をまずお伝えしなければと思うのです。周りと比べますと年齢でもマイナスポイントです。覚えることもシンドイことがあると思うのです。そういったデメリットを理解していただいてからのスタートだと思うのです。市としては、少しでも精神的な支えをします。相談に乗ります。一緒に頑張っていきましょう！！と全面的に大きく打ち出してからのスタートではないかと私は思います。非正規雇用のメリットもあると思うのです。働き方も多様性を求められてきています。
- 私はその就職氷河期世代。ただ、ありがたいことに今まで職に困ったことはないです。給与は安いけど。でもサポートがあるのなら知って、転職も考えたい。
- 専門の窓口、短期資格取得訓練、助成金等の各種制度はありますが、この氷河期世代という言葉に私たちが少しあきらめている傾向があります。以前から氷河期ということは自負していたものの施策によってよりピン트가ズレている支援になってしまった気がします。転職をくり返し、余儀なくされた(非正規雇用)この状況に対し正規雇用と同等に条件も近づきつつはありますが、、現実には厳しいです。努力が足りなかったのかもしれませんが。引き続き働くことができ、将来性や中長期的な部分においての保証があれば安心してより能力や経験等を発揮できるかもしれません。各事務所において、より詳細が明確になるような制度があればよいのかと思います。
- 賃金の底上げ(就職氷河期の世代に限らず、全体的に。)自分は運よく(?)正社員として就職できたが、賃金は、おそらく都会の同世代・同業種・同職種よりだいぶ低いはず。もちろん、会社の経営状態のせいもありますが・・・全体的に賃金が上がれば、働きがいを感じたり、それによってスキルアップしたり、消費が喚起されて経済も回るようになってさらに賃金アップ・・・と良い循環が生まれると思うのですが。

- 氷河期世代の中でも、女性はかなり立場がきびしいと思います。出産などでキャリアがとだえて復職できず、スキル取得しづらくなっています。能力は高いのにスキルがなくて活躍できない方が多くいます。より情報をわかりやすく丁寧に提供し、鹿児島市で女性が生きいきと働ける環境をつくっていければ、男性もおのずと家庭に協力的になると思います。男尊女卑の風土をなくしてほしいです。
- 特に年齢が高くなるにつれ、募集が少なくなる傾向もあり、募集案内にその年齢制限を表示しないところもあり不快な思いをすることがある。実際ハローワークで求人している事業所で、そのパターンがあったため不信感もある。今後50歳を超えても働き続けられるような環境づくり、事業所への働きかけを行ってほしい。
- 求職中のサポート（経済的に苦しい方・所得税非課税世帯など）があると良い。例えば、面接に行く際に必要な交通費の支給やスーツなど身なりを整える為に必要な支出への援助等。
- 雇用されても会社がその雇用を維持できるのか心配。家庭を持つ女性や子どもがいる女性に対して、正社員に対しては様々な措置があるが、パートやアルバイトの身分の人たちにも同じ待遇にしてほしいと思います。
- 高校卒業時は氷河期、短大卒業時は超氷河期で、仕事を選択できる状況ではなかった。なので、挑戦できる仕事は限られており、自分の適性が現在でもよく分からない。だから、就活の際に、適性検査（簡易的な）などがあると新しい分野にも挑戦しやすくなるのではないかなと思う。
- 昨年より、やっと正規雇用として働くことが出来ました。それまで、大学卒業してから最初の1年以外はずっと非正規雇用のためいつ雇止めになるのか、不安な日々を過ごしてきました。長い間、非正規雇用のため、貯金がなく年齢も中年の歳になっているので、老後が心配です。しかも一時、年金も支払えない事もあり、将来の年金生活に期待が持てません。これから先、老後生活になった時に支援を求めたいです。
- 職探しをして思うのは、私たちの世代の求人が（表向きは年齢不問でも）少ないということです。片っ端から応募しても落ちたり、キャリアを生かせないし単純作業くらいしか求人がありません。周囲の同世代も皆そういいます。そんな感じなので、私は複数の仕事を雇われずに自分で行うスタイルにしました。自営とフリーランスをしています。周囲の同世代のスキルのある人たちもそんな感じです。今さら就業という感じなので、起業、フリーランス、業務委託に対する支援があれば助かります。私だけでなく、そう思う同世代の人は多いのではないのでしょうか。
- 子どもが幼稚園に入る前、就職について動き始めようと思った時に、面接についての相談や、職場体験なども行ってみたいと思った時に、練習や講習で通う会場に、子どもを一時預かってくれる部屋や、保育士さんがいてくれるような環境があると、女性は参加しやすいと思います。近くに、子どもを預けられる身内がないお母さんたちは多いと思うので、ぜひ、支援の動きが目につくようなお店のエレベーターに貼りだされていたり、小児科などの女性がよく行くところに貼り出されていると、就職について考えたり、一歩ふみ出しやすいかなと思います。
- コロナで若者も就職氷河期になる可能性があると思う。その時にどれだけの職場が34～49才の人を選んでもくれるか不安に思う。
- 自分がどのような仕事に向いているか知りたいです。性格的に合う仕事分かれば少しくらい辛くても頑張れるのではと思って。
- 就職氷河期世代の人達は大学卒業時に正規職員として就職できず、その後も思うような働き方ができずに苦労しているケースが多いと思います。日本が8050問題に直面し、やっと氷河期世代への支援がスタートしたのも束の間、コロナ禍に陥り、厳しい状況に再び直面しているケースも少なくないと思います。せつかく希望の光を見出した方々への継続的な支援をお願いします。
- 特に必要性が無いのなら仕事はゆずってあげたいと思うが、経験を積んだからこそ出来る仕事も多いと思う。自分はもうすぐ子育てを終えるけれど、警察など公務員の仕事の中にも、子育てを経たからこそ活かせる分野もあるように思う。40～50代でも公務員になれる制度があればと思う。（知らないだけかもしれませんが）

- 私は安定しているので、特に要望はありませんが、同世代で立派な学歴や研究歴、キャリアをもっているのに、会社の倒産等で一步間違えるとびっくりするほど低賃金の職についていたりします。能力はあるのに、どうしても新卒の人の方が優遇され、再就職ができていないのを見ると、やりきれないのを感じます。
- 同時期に正規職員で採用された人はどんどん昇級して給与も上がっている。対して自分は同量の仕事をしても昇級せず、身分も不確か。勤続年数は15年以上あり、仕事量、責任度の高い仕事を任されていますが、その評価もされず、やる気を失いつつあります。どれだけ頑張っても同じなら、責任のない仕事がしたい。正規採用に挑戦しなかった自分も悪いのかもしれませんが、非正規労働者も正当に評価されたい。
- この年まで正社員の職に就けず、キャリア形成も難しく、何十年も使い捨て待遇に心身を病み、先が見えません。臨時職員ではなく、常勤の身分がいただけるなら、給与が低くとも自分や社会に感謝できる。
- 一度も働いたことのない人の募集も良いですが、現在働いているけどその当時不況でなかなかいい条件の企業が少なかったので、転職したい人にも門戸を開いて欲しいです。
- 公務員の採用条件に年齢制限があるのが残念に思う。
- 氷河期世代の単身世帯かつ非正規は大変だと思うので支援して欲しい

【性別無回答】

- なかなか難しい世の中ですが、時間を有効に使え家庭、介護もしながらも少しの時間働ける場所があれば働きたいと思うのですが、現実はないというのが現状です。父親の介護で実家と自宅を行ったり来たりなので難しい部分もあるのですが、自分の先々も不安です。